

## 子育て世帯の多様なライフスタイルを支援する都市・交通施策に関する研究

主査 大森宣暁(東京大学大学院准教授)

少子高齢社会に直面している我が国において、子育て中の親の社会参加を支援し、少子化に歯止めをかけるためにも、妊婦、乳幼児・児童を持つ子育て中の親および子供が、安全・安心・快適に外出活動に参加できる環境を整備し、多様なライフスタイルを可能とするための都市・交通施策が重要である。一人で移動できない乳幼児・児童を持つ子育て中の親は、外出活動を含めた日常生活活動において、多様なバリアに直面している。交通システムおよび活動機会に関するバリア以外に、子供の活動に拘束される親の活動スケジュールの時間制約、外出に伴い派生する活動に関するバリア、子育て支援サービスの利用に関するバリア、外出および子育て支援サービスの情報入手に関するバリア等が存在する。本研究は、乳幼児・児童を持つ子育て中の親が、外出活動を含めた日常生活活動を行う上で直面するバリアの具体的な内容を再整理し、地域社会で多様なライフスタイルを選択できる環境を整備するために有効な都市・交通施策を、都市・交通・建築・福祉等幅広い視点から総合的に検討することを目的とした。昨年度までの研究成果を踏まえて、引き続き子育て中の親の制約条件と行動実態の理解を深めるとともに、具体的な施策の提案に向けた検討を行った。

計5回の研究会を開催し、関連文献等のレビューと並行して、UR賃貸住宅を対象とした子育て環境からみた集合住宅団地の再評価と課題、子育てまちづくりに関する大学教育の試みとしての東京大学都市工学科での取り組み、東京23区在住の20代～60代の子持ち女性に対するインタビュー調査およびアンケート調査の結果に基づいた子育てに対する意識の世代間ギャップについて、それぞれ議論を行った。また、厚生労働省少子化対策企画室の方から、わが国の最近の子育て支援施策についてご紹介頂き、今後の方向性等に関して意見交換を行った。さらに、鉄道会社の子育て支援事業の一例として東急電鉄の方から学童保育事業の取り組みをご紹介頂き、意見交換を行った。さらに、名古屋大学で開催された第41回土木計画学研究発表会において、昨年に引き続き「子育てバリアフリー」セッションを企画し、研究会メンバー以外の参加者を交えて、子育て世帯の多様なライフスタイルを支援する都市・交通施策に関して多様な視点から議論を行った。